



# サフラン便り

第47号 22年10月15日発行

発行：佐賀県薬剤師会女性薬部会

佐賀市本庄町大字本庄 1269-1

TEL:0952-23-8931 FAX:0952-23-8941

<http://www.sagayaku.or.jp/josei/index.html>

## 第15回 APEC (アジア太平洋会議) WLN会合 (Women Leaders Network Meeting) 報告

### 刺激的な会合でした~WLN会合に参加して~

今年のAPEC (アジア太平洋経済協力)の議長国は日本です。毎年、議長国に女性のリーダーが集まって会合(WLN会合)が開かれます。今年は9月19日から21日の3日間、東京で開かれました。21のエコノミーから500人を超す女性たちが集まり「女性と経済」に焦点を当てた「女性による新たな経済活動の創造 - 人・自然・文化を活かす -」をテーマに、ディスカッションや講演が行なわれました。議長国にふさわしく開会式では菅総理、担当大臣の岡崎トミコさんが挨拶をし、レセプションには蓮舫大臣をはじめテレビで見る女性たちが、たくさん参加していました。

県薬女性薬部会が参加している日本女性薬剤師会は国の男女共同参画推進連携会議(えがりてネットワーク)のメンバーですが、このWLN会合に展示、エクスカージョン(夕食付きの東京タワー見学)を企画、参加をしました。2月から、日本女性薬剤師会にこのための委員会が設置され、私は依頼を受けて委員長を務めました。

会合で印象に残った言葉は「多様性」。グローバルな、この社会で生き残る組織(会社)となるためには、

組織の構成員の「多様性」が求められる。男性・女性の多様性に加え、その男性・女性の一人ひとりの個性を大事にするために、ひとりの個人の努力ではなく、組織の中でそれを可能にするシステムを作り出す必要があるということが多く語られました。わが国に、今、求められているのが「ワーク・ライフ・バランス」です。

女性たちへのメッセージとしては「ネットワーク、信念、そして声を発すること」でした。

21の地域から女性たちが集まる。衣服、言葉、しぐさ、食事などなどの中で、3日間を過ごしましたが、ロシアやチリのたくましい、そして素敵な女性たちなどを目にする、「堂々と」という言葉が頭の中でリフレインしていました。その言葉通り、最後のパーティは、フォーマルドレスでとの指示があり、迷いましたが、「隠さないで、堂々と」太い腕を出して参加しました。

\*薬事日報 2010年 9月24日 金曜日 第10885号で、「APEC女性リーダーズ会合で日女薬の活動を紹介・展示」北島・徳淵両先生が写真付きで掲載されています。是非ご覧ください。

FIP 2010 in Lisbon (8/28~9/3)へ行ってきました。 報告：女性薬剤師部会委員 鳥栖三養基支部 徳淵昭代

約3000名の参加者があり日本から約200名の参加でした。

中国の参加が最多に驚きました。

FIPの「annualreport2009-2010」を

[www.fip.org/annualreport09-10](http://www.fip.org/annualreport09-10) をご覧ください。

来年はインド、その次の年は本部があるオランダで開催されます。

初めて参加される方でも「First timers 案内」がありますので

容易に仲間ができますよ。

(ベレンの塔にて)



## (乳児の栄養 I)

凡そ乳児に対して理想的の栄養量と云えば実に人乳(母乳)であることは申すまでもありません。ところが種々の事情の為母乳で愛児を保育することができない場合があります。古来母乳代用として特に牛乳が使用されており且つたくさんのが母乳代用として使用されています。しかし、日本の統計にて乳児1ヶ年に達する以前に百人中人乳栄養を乳児は約4人死亡し、牛乳、粉末牛乳その他の人工栄養児は約24人即ち6倍の死亡率を示しております。国家の為人道の為誠に惜しむべきことであります。

(1)牛乳にて育てる乳児は下痢もし易く、胃腸も弱いことは誰も知っていただける通り、胃腸病にて苦しむ乳児は計り知ることのできない莫大な数で有ります。

何故に牛乳及び粉末牛乳で育てる乳児は下痢もし易く胃腸も弱いが之れ牛乳蛋白及び脂肪の消化困難と母乳の微アルカリ性なるに牛乳は弱酸性であるに大部分原因するのであります。牛乳及び粉末牛乳にて育てる「乳児の大便を調べますと沢山の白き塊があります。」之れ蛋白及び脂肪が不消化の儘にて現れたものでありまして、消化困難の立証であります。従って母乳又は真の母乳代用品にて保育する時は必ず減少するのであります。又牛乳及び粉末牛乳は弱酸性なるため健全な大人にして「僅か牛乳の2、3合も飲めば下痢を起こす」を見ても明らかであります。「育児の糧」より)

(米國ボーデンス・ミルク會社 ボーデンス・モルテツド・ミルク日本部 總代理店 岡本商會版)

## <第12回 小児保健大会 報告>

日時：平成22年10月2日(土) 14時~16時30分

場所：佐賀中部保健福祉事務所 別館会議室

演題1「食べる力を育むための地域・家庭の環境づくり」

佐賀県栄養士会地域活動栄養士 畑瀬正子先生

演題2「高等学校による食育の取り組み」 佐賀県立中原養護学校 養護教諭 河野 恵先生

演題3「極低出生体重児への継続支援と今後の課題」 国立病院機構佐賀病院 高柳俊光先生

演題4「佐賀県における学校心臓検診についてその現状と課題」

佐賀県医師会心臓検診専門医部会 田代克弥先生

演題5「学校医を中心とした性教育」

佐賀県医師会学校医部会 徳永 剛先生

今回は、共催をされている医師会の先生方のご講演が主でした。極低出生体重児への継続支援は保健師、保育士、学校教諭との連携の必要性を言われました。最近になって、保育士さんと連携がとれるようになったと子どもを含めた家族のフォローは地域の力が大きいと結ばれました。学校での心臓検診は心臓専門医が仕事の合間や夜中に心電図を見ていく作業をされて大変なご苦労があるとのこと。医師会のバックアップで成り立っていること、そのご尽力に感謝したいと思いました。また、学校医が行う性教育は産婦人科専門医が講演をするのには数的に限界があり、学校医が講演するための勉強会を医師会学校医部会が開催され、学校のみならず、地域の会合にも講演依頼がくるようになったと言われていました。これも地域活動の一環として医師会が地道にされていることを紹介され、共感するところが多い大会でした。毎年開催されています。是非皆さまもご参加ください。毎年10月第1土曜日です。(宮地)

## <ちょっと一言>

佐賀県薬剤師会生涯学習は「佐賀県薬剤師会Webシステム」を導入して県内の4会場に分かれて開催しました。手探り状態で2回目を終了したばかりですが、担当委員会の反省会で飛び交う単語がよく分からず仕舞いの私。でも、携帯電話を使いこなすように、若い薬剤師はこの新しいシステムも難なく利用していくんだらうと想像しています。3Dで各個人が学習する世界になったりして。その昔「宇宙家族」という漫画に登場していたテレビ電話を妙に思い出します。ママが電話に出る時にきれいに化粧したお面をつけていたっけ。(島田)